農業農村の整備

～あぐりあどばんす～

第 21 巻
第 762 号
2024 年７月４日
農村振興局設計課

■表紙写真
ICT 給水機利用に関する講習会の様子
■関連記事
学生への ICT 給水機利用に関する講習会を開催

■TOPICS

農業農村の最前線から

【茨城】学生へのICT給水機利用に関する講習会を開催…… 1
【茨城】御前山ダムにて地元小学生への見学会を開催…… 2
【岐阜】東海農政局 国営西濃用水第三期農業水利事業所看板掲示式及び開所式を開催…… 3
【島根】地元小学校で出前講座を開催…… 4
【島根】中牧ふるさと農道 竣工記念式を開催…… 5

≪記事募集中≫令和６年能登半島地震災害復旧支援、マンガ教材を活用した広報、若手職員中心で行った取組事例など読者が元気になる情報がありましたら積極的に投稿ください！！

学生へのICT給水機利用に関する講習会を開催

【茨城県茨城町ほか】

5月20日及び27日、那珂川沿岸農業水利事業所は、昨年度に引き続き2回目の開催となるICT給水機利用に関する講習会を、茨城県立農業大学校（以下「農業大学校」という。）及び茨城県立水戸農業高校（以下「水戸農高」という。）の学生を対象に実施した。

操作実演の様子（水戸農高）

本講習会は、農業大学校及び水戸農高と当事業所との間で昨年度締結した「スマート農業の普及・実践的教育のための実証ほ場の設置・運用に関する協定書」に基づき事業所が設置したICT給水機を利用し、機器に対する更なる理解を深め、スマート農業学習を効果的かつ効率的に推進するために開催しているものである。

操作実演の様子（農業大学校）

講習会では、実証ほ場において講師である機器メーカー職員からICT給水機の基本操作方法について説明を受けた後、学生が各自のスマートフォン端末からシステムにログインして実際に操作を行った。

また、水管理省力化以外の効果として、ICT給水機で得られるデータの蓄積・解析によって、若手でも熟練者同様の栽培管理が可能になるといった説明があった。

講習会の様子

講習会終了後、昨年度からの実証実験の結果をとりまとめた農業大学校の学生に話を聞くと、「水位のほか水温や気温などのデータを取得することで、収穫後に栽培管理を振り返ることができた。」、「昨年度の実証結果を踏まえて、更に水管理に対する理解を深めたい。」と回答があり、今年度の栽培・研究に向けて前向きな姿勢が伺えた。

当事業地域内で将来の農業を担う人材の育成や確保の観点から、学生との意見交換やスマート農業の普及などの取組を継続的に行ってまいりたい。

【関東農政局那珂川沿岸農業水利事業所】

御前山ダムにて地元小学生への見学会を開催

【茨城県常陸大宮市】

5月30日、茨城県常陸大宮市の御前山ダムにおいて、常陸大宮市立御前山小学校の3年生の児童を対象に御前山ダム見学会を開催した。本見学会はダム近隣の小学校から依頼を受け、御前山ダムの役割や構造について現地で児童に紹介するとともに、当事業のPRを図ることを目的に毎年開催しているものである。

ダムの役割についての説明の様子

まずはじめにダム管理所において、農業と水にまつわるクイズを交えながら御前山ダムの概要について説明を行った。児童は管理所から見える堤体や網場などの施設について関心をもった様子で、熱心に聞いていた。また、ダムの概要説明後、児童に水路やため池への転落事故防止啓発チラシ（全国土地改良事業団体連合会発行）を音読してもらい、農業水利施設の近くでは遊ばないよう注意喚起を行った。

水路やため池への転落防止啓発チラシを音読する児童

その後、気象観測設備や洪水吐を見学しながら監査廊に移動し、御前山ダムの構造やその管理方法について説明を行った。児童は普段立ち入ることのできない堤体内部のトンネルや急勾配な階段を歩きながら、ダムの大きさやその管理の大変さを感じている様子であった。

監査廊内での見学の様子

見学会後のアンケートでは、見学会の前には御前山ダムについて知らなかったと回答した児童から「ダムの役割は畑や田んぼに水を送ること。農業には大量の水が必要なことに驚いた。」などの回答が得られた。見学会を通じて、多くの児童が御前山ダムに対する理解を深めた。

今後も、多くの方が地域の食と農を支える当事業に関心をもち、理解を深め、円滑な事業推進につながるよう、造成した農業水利施設を活用したPRに取り組んでまいりたい。

【関東農政局那珂川沿岸農業水利事業所】

東海農政局 国営西濃用水第三期農業水利事業所 看板掲示式及び開所式を開催 【岐阜県大垣市】

国営西濃用水第三期農業水利事業所は、6月 24 日に岐阜県内の関係者参加の下、看板掲示式及び開所式を開催した。

本地区は、「国営西濃用水土地改良事業（昭和 43 年度～昭和 58 年度）」で、基幹的な農業水利施設を造成し、農業用水の安定的な取水が可能となった。その後、施設の老朽化が進んだため、「国営西濃用水第二期土地改良事業（平成 21 年度～平成 26 年度）」で緊急性の高い施設を対象に改修を行ったものの、未改修の施設については、老朽化によって用水路の目地からの漏水等により性能の低下が生じており、頭首工等の一部施設は必要な耐震性を有していないことから、老朽化した施設の改修と併せて耐震化対策を目的とした 「国営西濃用水第三期土地改良事業」に着手する運びとなった。

【看板掲示式の状況】
左から大野岐阜県農政部次長（農政部長代理）、石田西濃用水協議会長（大垣市長）、森東海農政局長、杉山農村振興部長、藤澤西濃用水第三期農業水利事業所長

【森東海農政局長挨拶】

開所式では開式に当たり、森東海農政局長から岐阜県を始め関係市町、土地改良区等への謝辞とともに事業推進に向けた決意表明が行われた。

また、岐阜県農政部長（代理）及び西濃用水協議会長（大垣市長）からは、事業の歴史的な意義とともに、国営事業推進に関係する方への謝辞と事業推進による地域農業のますますの発展への期待が述べられた。

本事業を契機とした地域農業の更なる振興に向け、一日も早い事業完了を目指し、事業所職員一丸となって、関係機関と連携して事業推進に取り組んでまいりたい。

【事業概要】

・事業期間：令和6年度～令和 15 年度（予定）
・関係市町：岐阜県大垣市、養老町、垂井町、神戸町、揖斐川町、大野町、池田町
・受益面積：田 4,840ha、畑・樹園地 88ha　計 4,928ha
・総事業費：130 億円（令和3年度単価）
・主要工事：頭首工2か所、用水路 15.3 キロメートル、水管理施設1式

【東海農政局　西濃用水第三期農業水利事業所】

地元小学校で出前講座を開催

【島根県吉賀町】

令和6年5月27日、益田県土整備事務所は、吉賀町の地元小学校において、小学5年生の児童を対象に農業・農村の多面的機能や棚田に関する出前講座を開催した。出前講座では、益田県土整備事務所の職員から、田んぼの持つ水源涵養効果や土砂崩壊防止効果、生物多様性を保全する機能などについて、小学生にも理解しやすいよう、わかりやすいイラストや平易な言葉で説明した。

出前講座を熱心に聞く小学5年生

ご飯一膳の値段の紹介やご飯を食べることが田んぼを守ることにつながるという説明に対し、児童は皆、笑顔でうなずいており、「ひとりひとりが自分でも容易にできることから、実践していこう」という気持ちが伝わってきた。

職員による授業

児童からは、「棚田のことをたくさん知ることができた」、「(里山や農家を守るため)お米をたくさん食べることが大切だとわかった」等の感想があり、農業の多面的機能や棚田保全の必要性について、理解が深まった様子がうかがえた。

また、本小学校では、出前講座に先立ち、田植え作業体験を実施し、本講座の内容について、より理解が深まるよう工夫されており、児童達は熱心に説明を聞いていた。

近年、農村地域においても、農業者の高齢化や後継者不足等に伴い、日頃、農業に接することのない小学生が多く存在する。本県では引き続き、こうした出前講座等をとおして、農業・農村の持つ役割への理解の浸透と関心を持つ子ども達を増やす取組を進めてまいりたい。

【島根県益田県土整備事務所】

中牧ふるさと農道　竣工記念式を開催

【島根県知夫村】

令和６年４月20日、中牧ふるさと農道の全線開通を祝し、丸山知事、平木知夫村長を始めとする約30名の関係者の出席の下、竣工記念式が開催された。

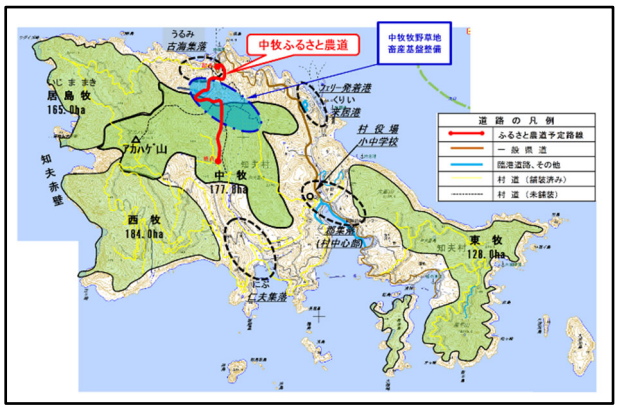
中牧ふるさと農道は、知夫里島の北側中央部に位置し、県道知夫島線の終点である古海を起点に仁夫までを南北につなぐ１．８ｋｍの農道で、島根県が事業主体となり、平成25年度より事業を進め、令和５年度に全線が開通したものである。

本農道は、村内の過放牧を解消するために別途整備が行われている公共放牧場と集落を結び、肉用牛の適正な管理を目的としたアクセス道路としての役割を担う。

また、本農道により、村の中心部と島北部の古海集落がつながることから、島の東側の県道が通行不能となった場合の代替道路としての役割を発揮し、地域の防災力の強化が図られる。

丸山知事も竣工式の挨拶において、本農道の開通によって本地域の畜産振興が一層図られることへの期待を寄せるとともに、能登半島地震で見られた陸路の寸断を事例に本農道が果たす代替通路としての役割への重要性を強調した。

当県では、引き続き実施中の農業農村整備事業の円滑な事業進捗に努め、農村地域の発展に向けた取組を進めてまいりたい。



中牧ふるさと農道位置図

【島根県隠岐支庁県土整備局】

第８回インフラメンテナンス大賞を募集しています

○「農林水産大臣賞」を受賞した農業農村分野の取組の紹介

【第１回】日本最古の水車を保全し伝統を守る
〔山田堰土地改良区 ほか〕

【第２回】ため池♡里海交流保全
（淡路東浦ため池・里海交流保全協議会）

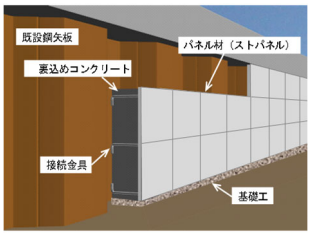
【第３回】手造り公共事業
〔えな土地改良区 ほか〕

【第４回】可搬式水門開閉装置「すぐれ門」による水門開閉作業の負担軽減
〔（株）岩田鉄工所 ほか〕

【第４回】ICTを活用した曲面形状のコンクリート構造物（固定堰）の改修
〔真柄建設（株）〕

【第５回】相互扶助の再生で保全管理技術を伝承
〔湯沢雄勝土地改良区〕

【第５回】腐食した「集水井」の内巻補強工法
〔農研機構 ほか〕



【第６回】パネル被覆工法「ストパネ工法」による腐食鋼矢板水路の補修・迅速再生技術の開発
〔藤村クレスト（株） ほか〕

【第７回】200年守り抜いた農業用水にスマート技術をオンしさらなる未来に継承する
〔立梅用水土地改良区ほか〕

○応 募 期 間　令和6年5月10日(金)～令和6年7月12日(金)

○表　彰　式　令和7年1月(予定)

○表彰の種類　内閣総理大臣賞、農林水産大臣賞、各省大臣賞、特別賞、優秀賞

○応 募 方 法　WEBフォームから提出

https://www.im-award-form.jp/index.html

○インフラメンテナンス大賞関連情報(国土交通省ホームページ)

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/maintenance/03activity/03_award.html

【定期情報誌『農業農村の整備』について】

○この定期情報誌『農業農村の整備』は、農業農村整備に携わる主に行政関係者(国、地方公共団体、独立行政法人等)間での、関連施策の推進に資する最新の情報等を共有することを主な目的として農村振興局設計課が発行しているものです。皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。

○投稿に関するお問合せ先は以下のとおりです。

農村振興局設計課	☎03-3595-6338	東海農政局設計課	☎052-223-4634
北海道開発局農業設計課	☎011-700-6752	近畿農政局設計課	☎075-414-9516
東北農政局設計課	☎022-221-6280	中国四国農政局設計課	☎086-224-9419
関東農政局設計課	☎048-740-0147	九州農政局設計課	☎096-211-9111
北陸農政局設計課	☎076-232-4722	沖縄総合事務局農村振興課	☎098-866-1652